

嚶鳴フォーラム in 釜石 開催にあたって

野田武則◎釜石市長

岩手県の南東部に位置し太平洋に面した釜石市は、世界三大漁場の一つ三陸漁場の重要な漁業基地として栄えてきました。そして安政4年(1857)、大島高任が、大橋に洋式高炉を築き、鉄鉱石による連続出鉄に成功して以来、東北地方有数の重工業都市としても発展してきました。橋野町に現存する日本最古の洋式高炉跡・橋野鉄鉱山は、近代製鉄発祥の地として、平成27年(2015)7月に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として世界遺産に登録されました。

釜石市を繁栄へ導いてきた鉄と海は、一方で、第二次世界大戦での2度にわたる艦砲射撃や、明治・昭和の大津波といった大きな苦難をもたらすこともありました。平成23年(2011)3月11日に発生した東日本大震災では、三陸沿岸は壊滅的な被害を受け、当市では約1,100名の方々が犠牲となりました。

そのような中で、高任が唱えたとされる「小さく生んで、大きく育てる」という思想は、まさに、今できることを一つずつ重ね、地域が一丸となって復興に向かって歩む釜石市の指針となりました。

この嚶鳴フォーラム in 釜石では、高任や、彼を支えた地域の先人たちの教えを通じ、よりよいまちづくり、人づくりへ繋がる学びを参加者全員で共有できることと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

講師紹介



童門冬二氏

どうもん・ふゆじ

作家。昭和2年、東京生まれ。敗戦による復員後、目黒区役所税務課を最初に、東京都広報室長、企画調整局長、政策室長等要職を歴任した後、昭和54年、美濃部亮吉東京都知事の引退とともに都庁を去り、作家活動に専念。在職中に培った人間管理と組織の実学を歴史と重ね合わせ、小説、ノンフィクションの世界に新境地を拓く。『暗い川が手を叩く』で第43回芥川賞候補。平成11年、春の叙勲で勲三等瑞宝章受章。『小説上杉鷹山』『義塾の研究』『聖水の守護者・井伊直虎』『西郷隆盛～天が愛した男』『細井平洲の経営学』など著書は600冊以上。



高橋克彦氏

たかはし・かつひこ

昭和22年、岩手県釜石市生まれ。早稲田大学商学部卒業後、浮世絵研究に没頭。昭和52年、初の著作となる『浮世絵鑑賞事典』を出版。昭和58年、『写楽殺人事件』で第29回江戸川乱歩賞を受賞して作家デビュー。昭和61年、『総門谷』で第7回吉川英治文学新人賞。昭和62年、『北斎殺人事件』で第40回日本推理作家協会賞。平成4年、『緋い記憶』で第106回直木賞。平成12年、『火怨』で第34回吉川英治文学賞。平成24年、第15回日本ミステリー大賞。平成25年、第2回歴史時代作家クラブ賞実績功労賞。「炎立つ」と「時宗」はNHK大河ドラマの原作となった。



村松文代氏

むらまつ・ふみよ

IBC岩手放送アナウンサー兼ニュースデスク。長野県出身。早稲田大学卒業後、IBC岩手放送に入社。IBCラジオ「朝からRAD10」(水～金)、「村松文代のフォーア」などを担当している。

嚶鳴フォーラムとは

嚶鳴フォーラムは、ふるさとの先人を通して、まちづくり、人づくり、心そだてに活かそうとする全国各地の自治体が一堂に会して、先人の知恵や経験から普遍的な人間の英知を再発見し、よりよき地域づくりへの道を学び、実践していくことを目的としたフォーラムです。第12回目となる本年は、11月16日(金)～17日(土)の2日間にわたって、公開フォーラム、市町長会議、教育長会議、視察研修会等が釜石市で開かれます。

【名称の由来】「嚶鳴(おうめい)」とは中国最古の詩集『詩経』に出てくる言葉で、鳥が仲間を求めて鳴き交うという意味。転じて、仲間が集まり切磋琢磨しながら、ともに学び成長しあう姿を表します。名君・上杉鷹山の師として名高い愛知県東海市出身の儒学者・細井平洲が江戸に開いた塾を「嚶鳴館」と名づけたことでも有名です。

嚶鳴協議会

嚶鳴協議会は、恵那市、大野町、沖縄市、小田原市、釜石市、木曾町、多久市、竹田市、田原市、東海市、長野市、日田市、養父市、米沢市が加盟し、(株)PHP研究所が企画運営協力する協議会で、事務局は東海市教育委員会社会教育課に置かれています(平成30年度現在)。HP:https://www.tokai-arts.jp/oumei_forum/

会場アクセス

釜石市民ホール TETTO

釜石市大町1-1-9 TEL:0193-22-2266

- 列車 JR釜石線または三陸鉄道南リアス線「釜石駅」下車、徒歩10分
- バス 岩手県交通「市民ホール前」または「釜石中央」下車
- 車 釜石大町駐車場または周辺の駐車場をご利用下さい

